

2026年 富田林市立図書館から、 5年生・6年生のみなさんへ

絵本ってどうやってつくるの？

ダニエル・ナップ／作
若松 宣子／訳
ほるぷ出版



作家のキツネのペトラは、イラストレーターのアナグマのユリウスと一緒に子どもの本をつくっています。浮かんだアイデアを絵や文にして、お話を完成させます。しかし、絵本がみんなの元に届くまでの様子をネズミのコンラートと一緒にみてみよう！

バロアチー！ 風香のバングラデシュ

茂木 ちあき／作
スカイ エマ／絵
国土社



チャイの香りにさそわれて入った刺しゅう教室で、6年生の風香はバングラデシュを深く知ることになります。バングラデシュは、貧困の子どもたちを支援する団体で働くお父さんがお母さんと出会い風香が生まれた国です。風香はノクシカタ刺しゅうやあいさつの言葉「バロアチー」などを通して少しずつ広い世界に目を向けていきます。

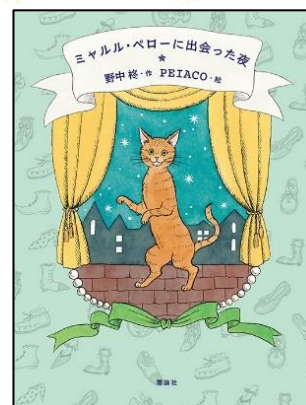
夏のおてがみ

図書館には、楽しい本がたくさんありますよ。

夏休みに、遊びにきてくださいね。

ミャルル・ペローに出会った夜

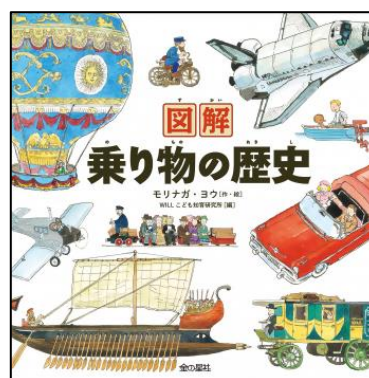
野中 柊／作
PEIACO／絵
理論社



遠くから旅をしてきたねこのニッキは、はじめての街でミャルル・ペローというねこに出会いました。ミャルル・ペローはニッキをつれて靴のミュージアムに行きました。そのミュージアムにはシンデレラの靴や長靴をはいたねこの長靴などいろいろな靴が展示されています。靴のミュージアムでおこる不思議な夜の物語です。

図解 乗り物の歴史

モリナガ・ヨウ／作・絵
WILL こども知育研究所／編
金の星社



お出かけするときに使う乗り物の歴史を見てみよう。バスは1834年にできました。そのころは、じょう気の力で動かしていました。旅行の時に使う新幹線は1964年にできました。ほかに、船や飛行機の歴史も書かれています。一番好きな乗り物の歴史を知って、次に乗り物に乗るときにはぜひ興味をもってみてください。

開運えんぎもの図鑑

高野 紀子／作
あすなろ書房

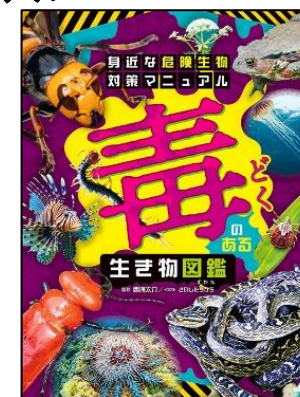


身近な縁起物の由来やご利益をかわいらしいイラストと共に学べます。「どうして招き猫は手をあげているの？」など、クイズのように楽しくわかります。お節料理や七福神、おめでたい数や色のことも書かれています。運をよびこむための心の持ち方や、飾り方まで丁寧に説明されていて、読むと前向きで幸せな気持ちになれる一冊です。

身近な危険生物対策マニュアル

どく 毒のある生き物図鑑

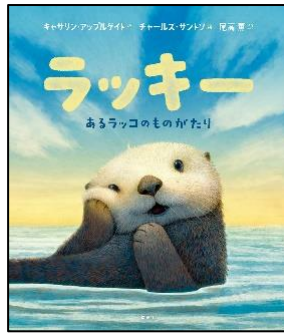
西海 太介／監修
きのした ちひろ／イラスト
理論社



オオスズメバチやヤマカガシ、さらにはチャドクガ、スイセン——まちの中にもひそむ身近な危険生物たち。さされるとどうなる？どこに気をつける？イラストやパラメーター、豆しきで楽しく学べる一冊。こわいけど目がはなせない「毒」の世界、のぞいてみませんか？身を守るヒントも見つかります。

ラッキー あるラッコのものがたり

キャサリン・アップルゲイト／作
チャールズ・サントソ／絵
尾高 薫／訳
偕成社



赤ちゃんラッコのラッキーは、お母さんとはぐれ、背の高いしっぽのない動物(人間)に、透き通る箱の小さな海(水族館)で、食べること、毛づくろいのしかた、おなかをテーブルにすることを教わります。海に帰ったラッキーは、だれより遊ぶのが大好きでしたが、大けがをします。でも、めげません。だってラッキーは、遊びの天才だもの。

図書だよりとひみつのノート

赤羽 じゅんこ／作
はらぐち あつこ／絵
さ・え・ら書房



6年生の陶子は念願の図書委員長になった。理由は特権の図書だよりを発行してみたからだ。しかし、頑張って書いた原稿を周りに「読みづらい」と言われてしまう。仲良しの千絵梨とは、交換日記の途切れをきっかけに心の距離を感じている。陶子はもやもやした気持ちを抱えながら、上手くいくように奮闘する。

セラピー犬ジョン

こども病院のきせき

今西 乃子／著
金の星社



ラブラドル・レトリバーのジョンは、セラピー犬です。ジョンはこども病院へ出かけて行き子どもたちを元気づけて、こども病院を笑顔でいっぱいにしています。こども病院にいるときのジョンは、お仕事モード。苦手なかみなりがなっても、おちついていきます。セラピー犬のお仕事を知るとともに、ジョンと子どもたちとのふれあいに心あたまる1冊です。

こねずみくん、ききいっぱつ！

ヘルダ・デ・プレーター／作
テー・チョンキン／絵
鶴木 桂／訳
徳間書店



お話はこねずみくんがいなくなったおじいちゃんを探しに行くところから始まります。居場所を知っているというフクロウになぜか食事にさそわれました。そこから次から次にききが訪れます。心の中に聞こえてくる不思議な声に耳をかたむけながら、こねずみくんは出会った動物たちといっしょにききをのりこえていきます。

かみなりせんによといなづませんによ

ハン・ガン／文
チン・テラム／絵
さいとう まりこ／訳
小峰書店

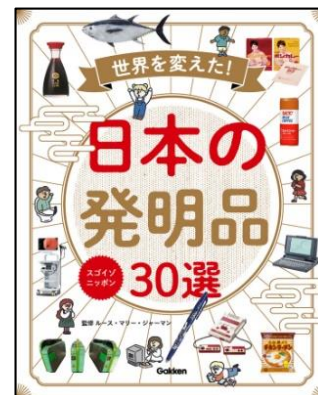


お空のくにはは仙女たちがたくさんの雲をつくっています。ある日、ふたりのおちび仙女が雨雲づくりにあきてしまい、あそんでいたところ、おばあちゃん仙女に見つかっておこられます。べつの仕事をたのまれ、やりとげたふたりは、ひろい世の中を見に行くことになりました。いよいよ出発の日、ふたりは2つの箱を渡されました。

スゴイゾニッポン世界を変えた！

日本の発明品30選

ルース・マリー・ジャーマン／監修
Gakken



あのゲーム機や乾電池、ペットボトルのお茶にインスタントラーメン、電車の自動改札機や点字ブロック。実はみんな日本生まれなんです。この本では、おじいちゃん、おばあちゃんの子供の頃よりもっと前からあるものやごく最近作られたものなど、当たり前に使っている日本の発明品ができるまでの苦労や、スゴイところなどが書かれています。

読み継がれてきた名作

わすれられない おくりもの

スーザン・バーレイ／さく・え
小川 仁央／やく
評論社



1986 年

とてももの知りなアナグマはたいへん年をとっていて、自分が死ぬのがそう遠くないことを知っていました。そして最後の夜にはふしぎですばらしいゆめを見ました。アナグマが死んでしまったことを知った友達はみんなとても悲しみましたが、アナグマが残してくれたことを思い出していくうちにモグラはおれいをいいたくなりました。

